

日本の食を世界に発信！ 外食業界は好調が続く

～ 業界を支える“縁の下の力持ち”企業にも注目 ～

●“国内安定基盤×海外での成長期待”がカギに

4月25日に日本フードサービス協会が発表した3月の国内の外食産業売上高は、前年同月比+4.6%と19ヵ月連続で前年を上回った。成長ペースこそ緩やかであるものの、消費全体が伸び悩むなか、天然・国産素材の使用や、栄養面に気配りしたメニュー展開など、価格以上の価値を提供して消費者を惹きつける各企業の努力が実を結んでいるようだ。

さらに足元では、海外進出に成長の活路を見出す外食企業が目立っている。国内人口の減少が避けられないなか、事業規模の拡大を目指す企業にとっては自然な流れといえよう。

ユネスコ無形文化遺産に登録された“和食”は海外でも人気を博しているほか、現地の食文化を加味したメニュー展開など各企業の工夫が奏功している。さらに訪日外国人観光客による帰国後のリピート消費も追い風となろう。海外進出による利益成長シナリオが描ける銘柄は、今後も先高観が続きやすいと考えられそうだ。

●外食産業を“縁の下”で支える銘柄にも注目

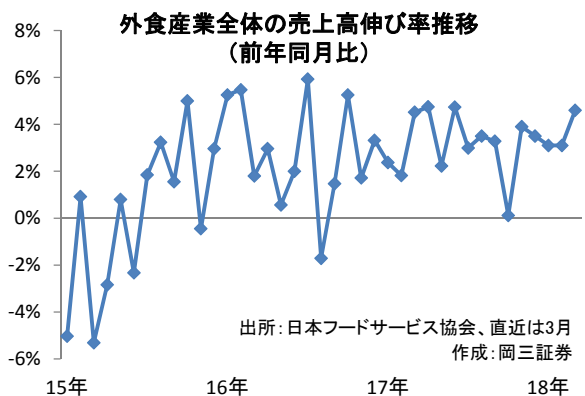
一方でコスト上昇に伴う値上げ戦略や、人手不足対策への投資が業績の圧迫要因になる点は気掛かりだ。コスト上昇要因は外食企業の多くが毎月公表する月次売上高のみでは把握しきれないため、注意する必要がある。

もっとも、長期的には省力化投資が人件費を継続的に抑制しよう。牛丼チェーンの吉野家はシフト管理にAI（人工知能）を導入する計画

であるほか、自動食洗機ロボットも開発中だ。

またこうした企業独自の取り組みに加え、材料の発注や会計、予約対応などの飲食店向け支援サービスを手掛ける企業の存在も不可欠となる。大手では飲食店検索・予約サイトの食べログを運営するカカクコムなどの関連企業も勝機を見出せそうだ。

《外食産業全体の売上高は19ヵ月連続の伸び》



《外食企業の一部は海外展開強化を打ち出す》

外食企業の海外進出計画例

ペッパー (3053)	ペッパーランチの海外店舗を2017年12月期末の307店から2018年12月期は338店へ拡大
すかいらーく (3197)	米国出店を検討。これまでは台湾にのみ展開
トリドールHD (3397)	2025年までに世界で6,000店舗を目指す
スシローGHD (3563)	2018年内に台湾に進出予定
ゼンショーHD (7550)	牛丼「すき家」を海外に年100店ペースで出店へ
リンガーハット (8200)	2020年に海外店舗数を現在の3倍の50店に

出所: 各種資料、作成: 岡三証券

《主な関連銘柄》

外食チェーン	直近の既存店売上高が前年同月比+3%以上	マクドナルド(JQ2702)、ペッパー(3053)、物語コーポ(3097)、アトム(7412)、ロイヤルHD(8179)、元気寿司(9828)、吉野家HD(9861)、王将フード(9936)
	直近の既存店売上高が前年同月比+3%以下	串カツ田中(M3547)、くらコーポ(2695)、あみやき(2753)、鳥貴族(3193)、すかい(3197)、スシローGHD(3563)、トリドールHD(3397)、カッパ・クリエ(7421)、ゼンショーHD(7550)、サイゼリヤ(7581)、ハイデ日高(7611)、コロワイド(7616)、リンガーハット(8200)
外食向けサービス・設備投資関連		アリアケ(2815)、カカクコム(2371)、ディップ(2379)、ぐるなび(2440)、夢の街(JQ2484)、インフォマート(2492)、アルファクスFS(JQ3814)、eBASE(3835)、シンクロフード(3963)、ジャストプラ(JQ4287)、エンJPN(JQ4849)、SHINPO(JQ5903)、シンメンテHD(M6086)、リクルートHD(6098)、ホシザキ(6465)、クックビズ(M6558)

作成: 岡三証券、5/7時点。 ※MIはマザーズ、JQはジャスダック
※元気寿司、王将フード、夢の街は貸株注意喚起銘柄(5/14現在)。

注目銘柄

※ 業績予想: カカコムは岡三証券、その他は東洋経済。 ※ 利益の単位は百万円。

※ カカコムは18/3期より国際会計基準(IFRS)採用のため、伸び率記載せず。

※ スシローグローバルホールディングスは国際会計基準(IFRS)。

※ チャートは日足ベースで5/1終値まで。 出所:Astra

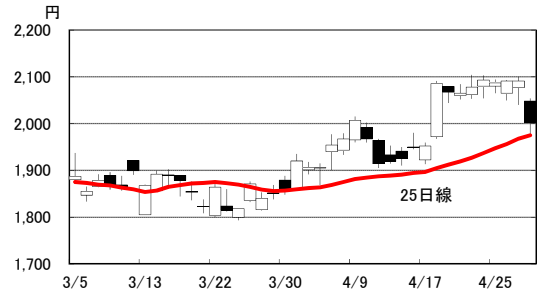
岡三証券
OKASAN SECURITIES

2371 (売買単位:100株)

カカコム

		連結税引前利益 (伸び率)	
		2017/3	21,164 (8.1%)
5/1株価	2,002 円	2018/3推	22,710 (-)
連推PER	27.1 倍	2019/3予	26,150 (15.1%)

さまざまな商品やサービスの値段を比較できる購買支援サイト「価格ドットコム」や女性向けライフスタイルメディア「キナリ」などのサービスを提供する。レストラン検索・予約サイトの「食べログ」は、掲載レストラン数が80万件超、2017年12月の月間利用者数は1億3,669万人にのぼるなど業界トップ級。また飲食店の顧客管理を支援する予約台帳アプリ「ヨクノート」の利用も好調に推移している。

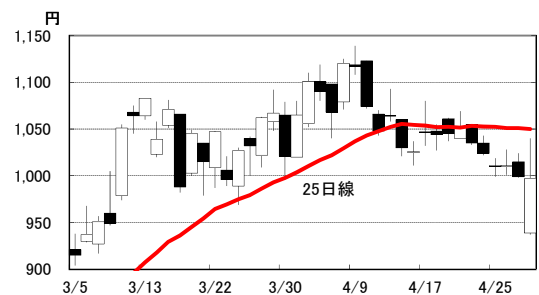


2492 (売買単位:100株)

インフォマート

		連結経常利益 (伸び率)	
		2017/12	1,751 (-10.1%)
5/1株価	997 円	2018/12予	2,500 (42.8%)
連予PER	77.3 倍	2019/12予	2,900 (16.0%)

外食と卸会社間を中心に、ビジネスの取引中に行われる必要書類の受け渡しを電子化するビジネスを手掛ける。国内最大級のBtoBプラットフォームを展開しており、期間ごとに利用料を請求する。今夏は企業間で交わされる契約書を「ブロックチェーン」で締結を行うことができる新サービスのリリースを予定している。

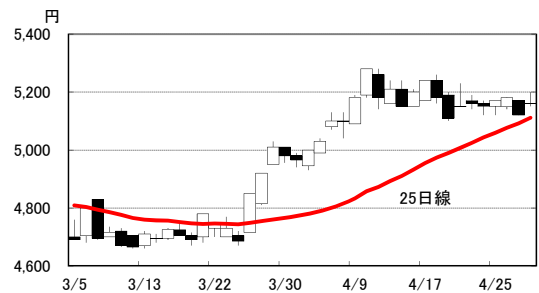


ジャスダック2702 (売買単位:100株)

日本マクドナルドホールディングス

		連結経常利益 (伸び率)	
		2017/12	19,718 (3.0倍)
5/1株価	5,160 円	2018/12予	21,700 (10.1%)
連予PER	35.2 倍	2019/12予	23,900 (10.1%)

ファーストフードチェーン最大手。追加料金で定番商品が増量できる「夜マック」などが好調で4月の既存店売上高は前年同月比7.4%増と堅調な伸びとなった。前年の実績を上回るのは29ヵ月連続。昨年からクレジットカードでの支払いにも対応するなど、業務効率化を進めている。

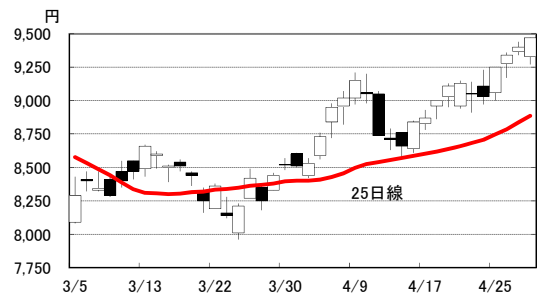


2815 (売買単位:100株)

アリアケジャパン

		連結経常利益 (伸び率)	
		2017/3	10,579 (16.5%)
5/1株価	9,470 円	2018/3推	11,300 (6.8%)
連推PER	38.4 倍	2019/3予	12,100 (7.1%)

畜産系エキスを原料とした天然調味料でトップ。製品はすべて業務用。レトルト食品などの加工食品や即席麺のスープ、コンビニの惣菜に加え、ホテルやレストランなどの外食産業でも用いられる。味を正確に分析し、再現する技術を強みに、世界8カ所での生産体制を整えるなど海外展開も進行中。ハラール認証を取得することで東南アジアでの需要も取り込む。

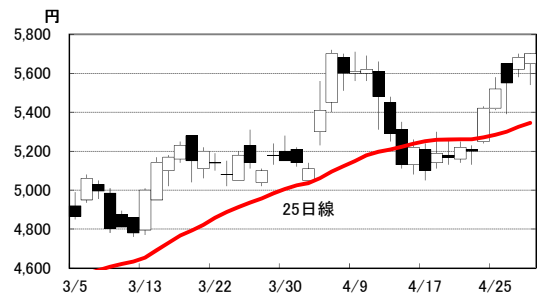


3563 (売買単位:100株)

スシローグローバルホールディングス

		連結税引前利益 (伸び率)	
		2017/9	8,995 (91.7%)
5/1株価	5,700 円	2018/9予	9,600 (6.7%)
連予PER	25.1 倍	2019/9予	10,200 (6.3%)

回転寿司チェーン「スシロー」を展開する。2017年9月、コメ卸の神明、元気寿司と資本業務提携を締結。2018年9月期第1四半期末時点で国内に485店舗、韓国に7店舗を展開。足元では海外2カ国目となる台湾への進出を決定した。自動皿洗浄機やセルフレジの導入に加え、自動音声応答によるテイクアウト注文システムなどさらなる機械化・省人化を進める方針。



重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<http://www.okasan.co.jp>)をご参照ください。

地域別の開示事項

日本:

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」(もしくは目論見書及びその補完書面)または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<有価証券や金銭のお預りについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預けになる場合は、1年間に3,240円(税込み)の口座管理料をいただきます。加えて外国証券をお預けの場合には、1年間に3,240円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、当社が定める条件を満たした場合は当該口座管理料を無料といたします。

なお、上記以外の有価証券や金銭のお預りについては料金をいたしません。さらに、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,480円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

・株式の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.242%(税込み)(手数料金額が2,700円を下回った場合は2,700円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.242%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.35%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。

※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。

・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。

<債券>

・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。

・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。

・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます(直前2回分の各利子(税引前)相当額×0.79685)。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品ではありますが、発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債(転換社債)>

国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.08%(税込み)(手数料金額が2,700円を下回った場合は2,700円(税込み))の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用:お申込手数料(お申込金額に対して最大3.78%(税込み))
保有期間中に間接的にご負担いただく費用:信託報酬(信託財産の純資産総額に対して最大年率2.2312%(税込み))
換金時に直接ご負担いただく費用:信託財産留保金(換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%)
その他の費用:監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません(外国投資信託の場合も同様です)。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.242%(税込み)(手数料金額が2,700円を下回った場合は2,700円(税込み))の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品質料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

- 自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。
- 平成49年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

香港:

本レポートは、香港証券先物委員会(SFC)の監督下にある岡三国際(亜洲)有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家(PI)に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際(亜洲)有限公司にお願いします。

米国:

本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみ配信されたものです。岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しブローカー業務を行いません。本レポートで言及されている銘柄の売買注文は、アーバック・グレイソン社を通して執行いたします。

なお、本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。

さらに、本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有していません。また、当該アナリストは、アーバック・グレイソン社または他の業者の関係者ではありません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構(FINRA)規則の適用の対象ではありません。

その他の地域:

本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。

本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。

地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

(2017年7月改定)